

## IV. 基本構想の実現に向けて

### 1. 火の山地区観光施設再編整備ロードマップ

火の山地区観光施設再編整備に向けては、基本構想をふまえた計画の段階的な具体化・実現化、整備主体や運営主体の調整、事業実施に向けた財源確保等を図っていく必要がある。

今後の取り組みについて10年間を目安に火の山観光施設再編整備のロードマップを作成した。ロードマップは、再編整備開始から、短期(5年程度)、中期(7年程度)、長期(10年程度)と大きく3つの期間に区分している。各3つの期間に対して、全体整備、山頂公園、ロープウェイ上駅、山麓公園、関門トンネル人道入口の各ゾーンで主に整備する内容を整理している。あわせて、再編整備メニューについても一覧として示した。

#### (1) 計画の具体化に向けて

- ・基本構想をふまえた各種調査、基本計画～基本設計～実施設計と、整備内容の具体化。
- ・事業の全体像と整備事業(ハード面)と運営体制(ソフト面)の具体化。

#### (2) 地域関係者との機運醸成に向けて

- ・基本構想をふまえた社会実験やワークショップを通じた地域参加の促進。
- ・様々なコンテンツビジネスを手掛ける企業へのサウンディング。
- ・地元企業と県外企業とのマッチング、組織化を見据えた交流。

#### (3) 段階的な整備に向けて

- ・各ゾーンの段階的な整備による事業推進
- ・火の山地区への来訪を途切れさせることのない事業ステップの配慮。
- ・上記の計画内容や地域関係者の機運醸成とリンクした取り組み促進。

【火の山地区観光施設再編整備メニュー一覧(案)】

エリア	具体的な行動・事業の一例	実現へのポイント(考察)	主なメニューのイメージ				
山頂公園	新しい「場」の整備	・あおぞら図書館	・実施日が天候に左右される、不定期の実施、書架・書籍の準備(移動図書館活用)				
		・パークアート(市民アート展示)	・屋外展示作品の「場」、アートワークショップ等との開催も考えられる(市民文化活動)				
		・砲台跡を利用したカフェ、展示会等	・歴史遺構の活用、清掃、一部補修は必要であるが全天候空間が容易に確保・利用可能				
		・ライトアップ	・夜も楽しめる「場」として歴史遺構等を日常的にライトアップ				
		・青空マルシェ(朝市など)	・市民向け(観光客も来訪)に様々な物産を扱う現代の「市」が開かれる「場」として利用				
		・ヨガ教室(健康増進)	・ヨガに限らず様々な「健康増進」を行う「場」として利用				
		・その他市民が利用しやすい柔軟な環境整備	・市民が火の山地区を再認知、愛着を持ってもらうために「場」を柔軟に提供する				
		・インスタスポット整備	・関門海峡の眺望に特化、関門海峡の眺望とコラボするインスタスポットの整備				
	・キャンプ・グランピング	・「火の山で一夜過ごす」特別な体験が出来る「場」の提供(洗い場など施設整備が必要)					
	・ツアーとの連携	・エージェントが興味を持つ、魅力的な「場」の提供が必要。火の山地区全体が対象					
イベントの一例	・イベント活用の社会実験	・観光施設再整備を行う各種知見を得るために実施、再整備のPRにも活用					
	・イベントと合わせた飲食の提供(キッチンカー等)	・キッチンカー出店のルールづくりが必要(登録ルールの決定)					
	・ジャズ祭等(ex.ストリートパフォーマーの祭典)	・ジャズに限らず、山頂公園の各所で演奏、演者の募集・登録制度の整備					
	・火の山まつり(継続的なイベント実施)	・春夏秋冬のシーズンごとに集客イベント(「光」アートなど)を実施					
	・個人・団体へのイベント活動の「場」を提供	・日時を区切り限られたゾーン貸出(利用者申請と内容審査(反社等排除)が必須)					
	・天体観測(星空観測会)	・山頂から季節ごとの天体ショーを観測するイベント開催					
施設管理・運営	・夜景探偵団(ツアー、大人のイベント)	・関門海峡の夜景を楽しむツアー(ガイドの育成が必要)					
	・清掃活動	・「グリーンバード」のような自主組織(NPO等)を想定(火の山地区全体も視野)					
ロープウェイ上駅	新しい「場」の整備	・眺望を楽しむ新展望空間での高品質な飲食の提供	・眺望を活かした、上質なくつろぎ空間を実現するには必須(短期はキッチンカーの活用も想定)				
		・旧ロープウェイの展示	・ロープウェイが移動手段としての役割を終える場合に検討				
	イベント	・駅イベントを開催(バックヤード見学会)	・ロープウェイが移動手段として存続する場合に実施、駅施設を多角的に活用				
	既存施設の更新	・新展望台でのイベント開催	・新駅舎に設置する展望台を有効に活用する				
情報発信	・移動手段の更新	・移動手段更新の方針が施設再編整備の手順・工程をコントロールする要因となる					
	・更新に伴う工事期間の仮設展望台の設置	・火の山地区で最高の眺望が得られる「場」であることを更新工事期間もアピール					
山麓公園	新施設・体制整備	・移動手段の更新・新展望台の周知	・眺望を活かした、上質なくつろぎ空間の認知・ブランド力アップの肝				
		・更新後の施設内のスペースの誘致企業募集	・眺望を活かした、上質なくつろぎ空間を実現するための肝				
		イベント	・アドベンチャー部分開業	・子供向けのアスレチック施設を整備、集客・運営・管理に係るテスト運用			
	既存施設の更新	・トルコチューリップ園との一体的整備	・来園者の回遊・散策コースへの組み込み、案内				
	施設管理・運営	・フィールドアスレチックの整備	・自然の中でダイナミックに遊ぶ、活動の場の整備				
	情報発信	・ユースホステル等との連携	・宿泊客への案内、日常管理(見回り等)への協力依頼				
関門トンネル人道入口	新施設・体制整備	・アドベンチャー利用の社会実験	・スラックライン、ハンモック等簡易な設備を準備、キャンプ利用を想定				
		既存施設の更新	・遊具の更新	・利用の危険を伴う施設の撤去・補修。周辺住民が利用したい公園にすることが目的			
		施設管理・運営	・老朽化施設の整備	・同上			
	新施設・体制整備	・ボランティアによる日常管理に向けた組織作り	・地域活動を担う地元住民が主体の組織化の推進				
	情報発信	・公園の掃除	・地域活動の一環として市民に愛着を持ってもらう工夫(公園サポーター、日常管理)				
新施設・体制整備	・樹木の伐採	・公園の魅力向上(現在、公園内に光が差し込まず、海側への眺望も遮断)					
	新施設・体制整備	・サイクルポートの設置	・自転車利用者向けに様々なサービスを提供(サイクルツーリズムへの対応)				
	新施設・体制整備	・ビジターセンターの整備	・各種観光案内で紹介、現在も観光客が訪れる場のポテンシャルを周知に活用				
新施設・体制整備	・スロープカー駅とビジターセンター、カフェスペース等の機能を融合した複合施設の整備	・移動手段の整備と連携、運営体制の検討が必要					
	・レンタサイクルの連携	・火の山地区の玄関・コア施設(拠点機能を付与)、観光案内所					
新施設・体制整備	・ネイチャー体験の受付	・既存のレンタサイクルの拠点を整備(海峡サイクリング)					
	新施設・体制整備	・キッチンカー(カフェ等)での飲食提供	・新施設が整備された場合の活動の一例、新施設の運営団体が主体で実施				
情報発信	・キッチンカー(カフェ等)での飲食提供	・キッチンカー出店のルールづくりが必要(登録ルールの決定)					
	・ビジジュアルコンテンツの展開	・観光客が所有するモバイル機器を利用、基本的にソフト整備で実現可能					
情報発信	・火の山全体のイベント周知	・みもすそ川公園及び関門人道 TN 入口施設等での周知から着手					

【火の山地区観光施設再編整備ロードマップ(主要項目)】

エリア戦略		短期（5年程度）	中期（7年程度）	長期（10年程度）
		【火の山地区の認知度向上】	【火の山地区の魅力向上】	【火の山地区のブランド力向上】
コンセプト		再生誕 火の山 ～多彩な魅力を発信・体験する場～		
【全体整備】				
人道口から山頂まで快適な移動とともに楽しさを感じられる移動手段の再構築	①主要動線	既存ロープウェイ新移動手段設計（調査・設計）	新移動手段の段階整備	新移動手段とソフト事業との連携による集客
	②トレイル動線	ハイキングルートの検討（見直し）と整備	トレイルルートの検討	トレイル動線の運用開始
	③パークウェイ	パークウェイ（駐車場・道路）の利活用検討	パークウェイ（駐車場・道路）の改修	パークウェイの利活用の本格化
	④駐車場（新設）	各駐車場の設計	山麓公園・関門トンネル人道入口駐車場整備	供用開始
	⑤広域連携	関係者協議	サイクルポート／公共交通の見直し	運用開始
【山頂公園】		～山頂公園の認知度向上～	～山頂公園の魅力向上～	～山頂公園の安定的な集客力の向上～
自然や歴史を生かした年中楽しめるイベント空間	①市民活動の場としての活用	キッチンカー等社会実験/関係者協議	暫定利用から日常利用に順次移行	市民が主体となった市民活動の場へ展開
	②定期的なイベント等の展開の場としての活用	イベント社会実験/利用空間の整備/関係者協議	イベントの継続実施/ライトアップの実施	暫定利用から定期的イベントへ移行
	③砲台跡地の活用	樹木の伐採（間伐）/砲台跡の改修/関係者協議	火ノ山砲台跡の利活用	暫定利用から日常利用に
	④全体の空間整備	子供広場改修&上記①～③に連携した広場改修	市民への開放	
【ロープウェイ上駅】		～絶景の周知・認知度向上～	～施設整備・情報発信～	～交流促進・ブランド力向上～
眺望を活かした上品なくつろぎ空間	①絶景パノラマビューを生かした展望台設置	展望施設の調査・設計（新移動手段と連携）	展望施設の整備/仮展望台の整備	民間企業と官民連携による地域のブランド力向上
	②新たな癒しの空間への整備	WSの実施（民間企業参画促進）/関係者協議	展望施設内に入る民間企業の選定	民間企業と官民連携による地域のブランド力向上
【山麓公園】		～山麓公園の認知度向上～	～山麓公園の魅力向上～	～山麓公園の安定的な集客力の向上～
自然の中でダイナミックに遊ぶ活動の空間	①自然の中で多世代が楽しめる活動の場	社会実験/樹木の伐採（間伐）/関係者協議	遊具の整備/チューリップ園との連携/関係者協議	フィールドアスレチック整備/イベント実施
	②新たなライフスタイルに対応した取組の場	宿泊施設等との連携検討	宿泊施設とのツアー等の提示	宿泊施設との連携確立と発展
【関門トンネル人道入口】		～火の山地区の認知度向上～	～火の山地区の魅力・集客力の向上～	～火の山地区の観光客の増加～
遊び方を提案する情報提供の空間	①火の山情報交流拠点の整備	サイクルポートの社会実験/関係者協議	ビジターセンターの設計/整備/飲食社会実験	供用開始
	②歴史体験エリアとして位置づけ強化	ビジュアルコンテンツの展開/ツアーガイド整備	火の山全体での観光活用（イベント等）の展開	複合施設との連携による展開と発展

■ 火の山地区観光施設再編整備の段階とイメージ

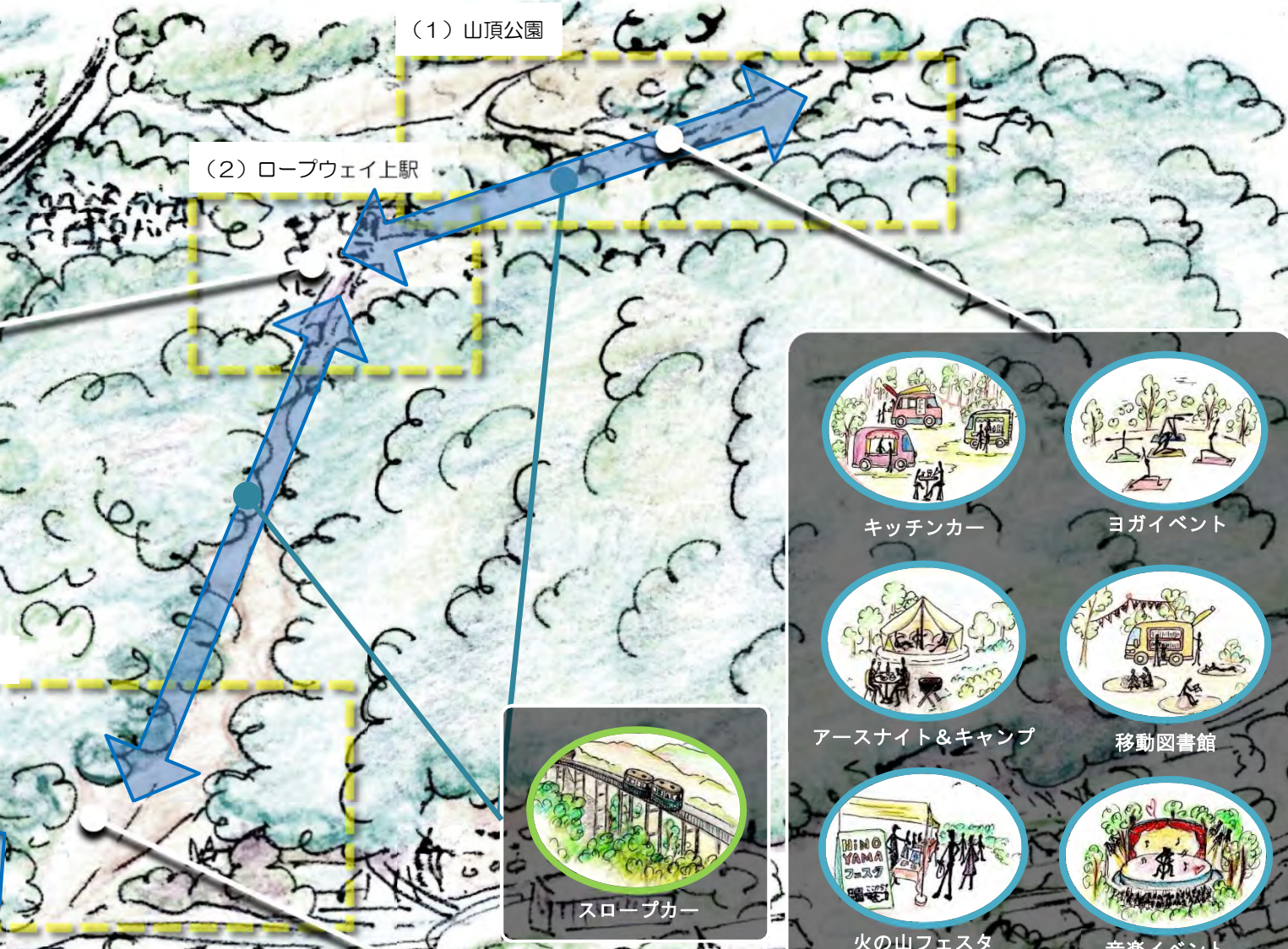
歴史資料等 QR 検索      ツアーガイド

サイクルポート      サイクリングロード  
(既存ルートの活用)

AI/AR 活用探索      ビジターセンターの整備

夜景・ライトアップ      新展望台

展望レストラン      サイクリングロード  
(パークウェイ活用)



スローカー

キッチンカー      ヨガイベント

アースナイト&キャンプ      移動図書館

火の山フェスタ      音楽イベント

絵本読み聞かせイベント      可動式アスレチック

グランピング      AI/AR 活用探索

砲台跡の利用

フィールドアスレチック (導入部整備)      フィールドアスレチック (整備範囲の拡大)      フィールドアスレチック (整備内容の多様化)

樹木の伐採      公園の清掃      音楽イベント

シェアオフィス      パークウェイの利活用

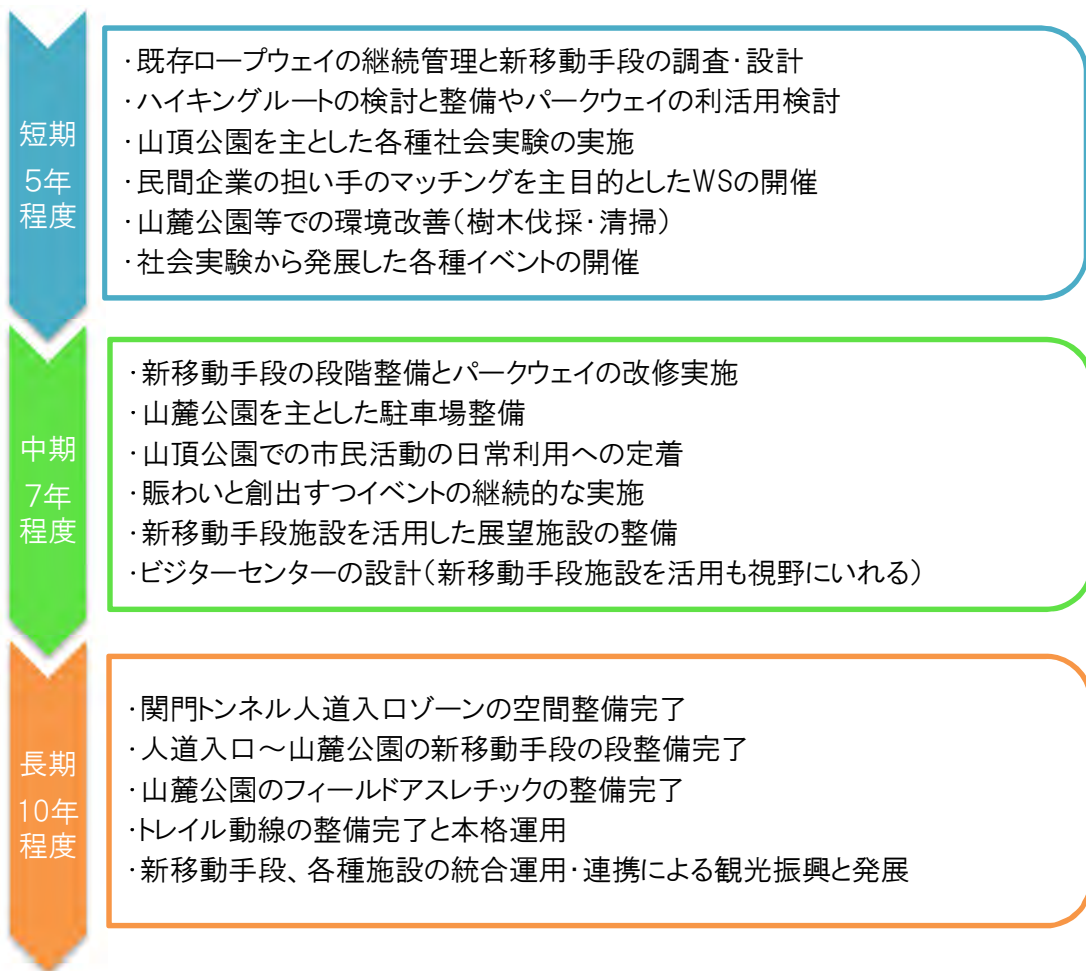


## 2. 段階的整備イメージ

火の山地区観光施設再編整備は、4つのゾーンや3つの動線など、多様な空間や要素、大規模な整備が伴い、中長期にわたり事業展開を進めていくこととなる。また、現状の施設や空間を活かしつつ、市民や観光客の来訪を途切れさせることなく、事業実施を図っていくことが求められる。

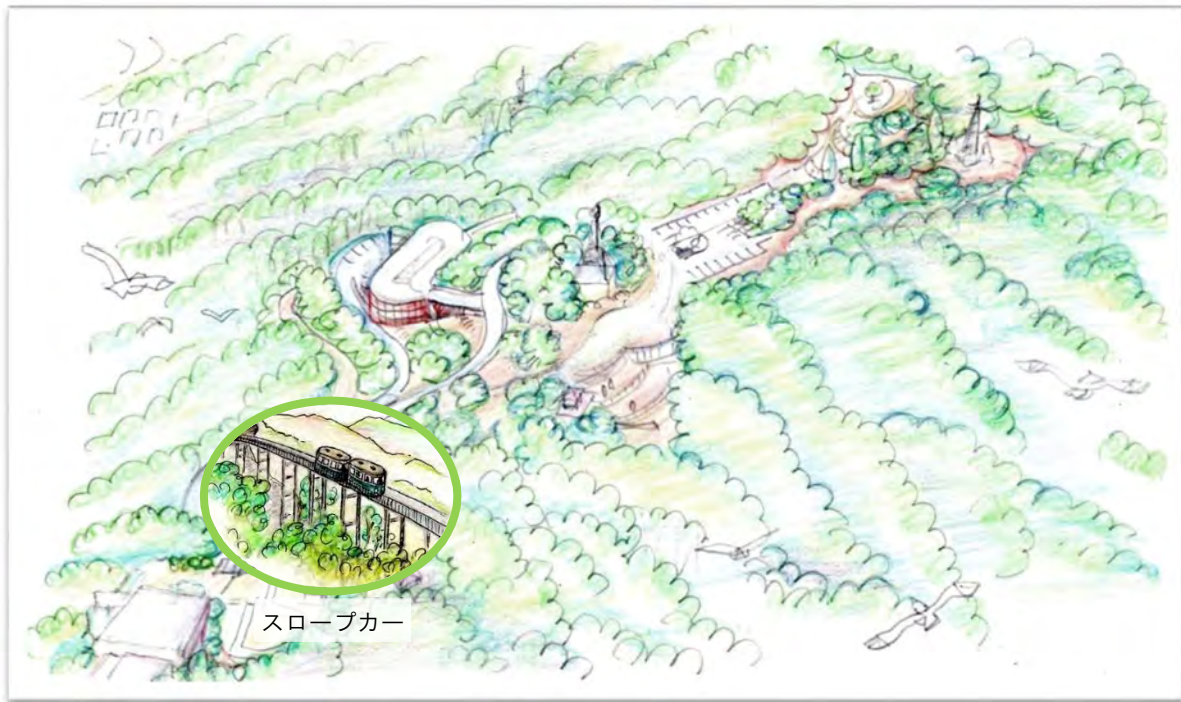
そこで、火の山地区全体の段階整備イメージを提示する。

### 段階的整備の骨子



以上、次頁以降に、各エリアの整備段階とイメージを示す。

# 山頂公園 整備段階とイメージ



スロープカー

短期



キッチンカー



ヨガイベント



移動図書館



アースナイト&キャンプ



音楽イベント



火の山フェスタ



絵本読み聞かせイベント



可動式アスレチック

中期



AI/AR 活用探索



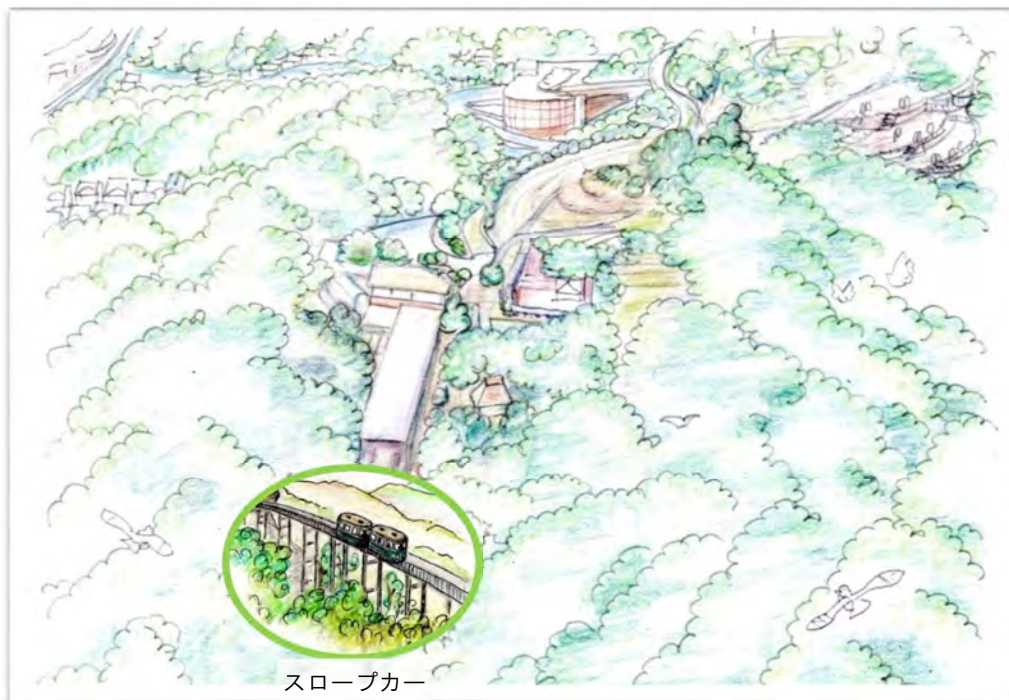
グランピング

長期



砲台跡の利用

## ロープウェイ上駅 整備段階とイメージ



短期



中期



長期



# 山麓公園 整備段階とイメージ



短期



公園の清掃



樹木の伐採



音楽イベント

中期



シェアオフィス



フィールドアスレチック  
(導入部整備)

長期



パークウェイの利活用



フィールドアスレチック  
(整備範囲の拡大)



フィールドアスレチック  
(整備内容の多様化)



# 関門トンネル人道入口周辺 整備段階とイメージ



短期



ツアーガイド



歴史資料等 QR 検索



サイクルポート

中期



サイクリングロード  
(既存ルートの活用)



AI/AR 活用探索

長期



ビジターセンターの整備